

患者の視点を取り入れた医療安全教育手法を体験しよう！

田中和美・岸美紀子・渡辺恵（群馬大学） 清水郁夫（千葉大学）

医療が高度化、細分化、複雑化されていく中で、より質の高い安全な医療の提供には、患者・家族をチームの一員と捉え、患者の意思、選好、信念を尊重し、共に医療を進めていく意識を持つことが不可欠である。

Patient Journey Mapping(PJM)とは、地域社会を含め様々な医療現場において起こる、一人の人間としての患者が経験する時間空間的な相互作用やケアの変遷を図示することである。これにより、患者の個人的な経験を中心に据え、患者経験を左右するキープロセスや、そこに潜むリスクを同定・可視化し、改善策を検討することが容易になる。同時に、ケアプロセスにどのような職種がどのように関わっているか、それぞれの職種の役割は何かを可視化することもでき、多職種連携の重要性について理解を深めることもできる。

本ワークショップでは、参加者のグループワークとしてPJMを実際に体験し、各施設での活用について検討する。

アソシエイトポイント：TL 0.25

対 象

職種を問わず医療安全教育・多職種連携教育に関心がある方

定 員

40名